

湘南の歴史街道を行く⑥「滝山街道」 解説

2022年11月11日(金)

池内、岡村、阪本、露木、弥勒寺、渡辺

滝山街道(八王子道)は、戦国時代北条氏の北関東支配の要の城として重要視された「滝山城」への連絡道として使用される。城主北条氏照は天正15年(1587)八王子城に移るまで60年間城を守った。永禄4年(1561)上杉謙信の攻撃を受ける、永禄12年(1569)には武田信玄の攻撃に合い、本丸直下まで攻められ、落城寸前まで追い詰められた。多くの将兵達を通ったであろうこの街道を歩いてみたいと思う。

白旗神社前を出発、藤沢バイパスを潜ったらすぐ、右側の小さな路地を北に向かう。住宅地の中を抜けて、標高差30mの急坂を登り切って、国道467号線に出る。相模原台地に出たのである。ここから平坦な滝山街道が一直線北に向かって伸びている、台地の東側は境川の谷に切れ落ち、西側は引地川が流れている。広々とした台地にはゴルフ場が出来、当時のクラブハウスが文化財として残されている。戦時中は飛行場も作られた。東側の住宅地には「八洲台-1」と看板が設置されている、八洲台-6の通りまでである。昭和の初めは見晴らしが良く、関八州が見渡せたと伝える(岡村)地名の由来なのであろうか。

立石2丁目のY字路交差点で国道と別れて右側の滝山街道本道に行く、国道の喧騒を離れて、静かな畑道を歩くようになる、白菜、大根、人参が大きく育っている。

西側は丹沢山塊と大山、箱根そして雪が被った富士山も良く見える。

この街道唯一の宿場となっている「亀井野村」に入る。江戸時代の地誌相模風土記稿によると、「天正年中彦坂小刑部元正が検地し・・・、八王子道係る幅3間、この地継立となす、藤沢宿へ一里九町、長後村へ一里継送れり」と記述されている。

六会日大前信号で①コースと別れ、②コースは更に北へ向かう。「雲昌寺」でトイレ休憩します。この辺りは旧家が健在で、乳鋳の付いた冠木門が所どころ残ってる。殿窪を過ぎると湘南台7丁目に入ると、滝山街道の面影はなくなり、住宅地の中を歩く事になる。湘南台5丁目32で狭い路地に入ってゆく「長後南歩行者専用道」を歩いて行く。快適な遊歩道が長後の先まで続くと言う。15分程歩くと「上谷戸第三公園」に出る、②コースのゴールです。長後駅へは左折して3分だ。 完